

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等番号・名称： 13-1 名古屋大学医学部

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 Ⅱ 質の向上度 1. 質の向上度</p> <p>【原文】 当該組織から示された事例は5件であり、<u>その中で「改善、向上しているとはいえない」と判断された事例があった。該当する事例の判断理由は以下のとおりである。</u> ○「<u>寄附講座の充実</u>」については、<u>示されている資料では寄附講座の教員数しかわからず、教育にどのくらい関与しているかは判断できない点で、改善、向上しているとはいえないと判断される。</u></p> <p>【申立内容】 【修正文案】の通り変更願いたい</p> <p>【修正文案】 当該組織から示された事例は5件であり、<u>そのすべてが「相応に改善、向上している」と判断された。</u></p> <p>※個々の事例がそれぞれどの評価を得たかが不明なため、明確に修正文案が書けないが、本申立てが取り上げられれば、評価の段階（改善、向上しているとは言えない。）も変更され得ると考え修正文案の一例を上記のように記載した。</p> <p>【理由】 別添資料（医）Ⅰ-Aに掲げた、画像情報外科学等、11の新領域における寄附講座の名称および24名（医学部教員の約1割に相当）の担当教員数から、これらの講座の教育への寄与は自明であると考えていたが、教育への関与が判断できないとの評価を得た。これらの寄附講座はその名称からも明らかなように、従来の学問体系にとられない新領域の講義と実習を提供でき、医学部学生への教育に大きく寄与していると考えている。 なお、資料に示す講座は、寄附講座として既存の授業（カリキュラム）に加えて開講されているものであり、平成17、18、19の3年度の間に最新医療技術（内視鏡手術、腹膜透析など）を含む各々46コマ、49コ</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 現況調査表を再確認したところ、当該事例が学部教育に寄与していることが認められないため。</p>

マ、193 コマ（1 コマ 90 分）の授業を実施し、教育に大きな効果を上げている。	
--	--